

Enjoy Learning Project

make

3月4日（水）成果報告会



 **make**

B

L

S



B L S

Basic Life Support

一次救命処置

BLS

 make

(Basic Life Support : 一次救命処置)



倒れている人などを
発見してから
救急車が到着するまで
の間に行う救命処置

胸骨圧迫や人工呼吸、
AEDの使用など

BLS



(Basic Life Support : 一次救命処置)

「学生」が
患者さんや
地域に貢献する
には・・・

BLS

(Basic Life Support)

一次救命処置
AED、胸骨圧迫など

「直接、人を
助ける大切さ」
を社会に発信
するには・・・



BLS はなぜ重要？

それは一言でいうと・・・救命の可能性が高まるから

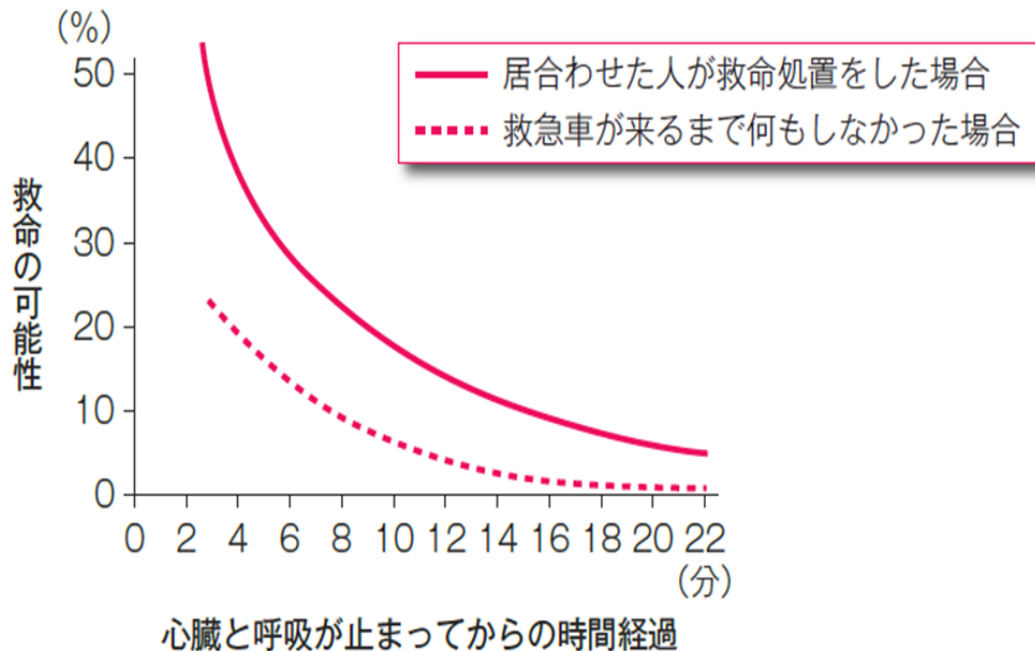


図3 救命の可能性と時間経過

公表されている総務省の「H29年版 救急・救助の現状」によると、救急車が来るまでの時間は **8.5分(全国平均)**

↓

この8.5分の間に救命措置を行った場合、何もなかった場合に比べて **10%ほど救命の可能性が上がる** と言われている<右図> ※注1



セミナーの開催

▶ PUSH講習

(学内で計2回実施：計32名参加)

- 現役の医療従事者と共同で実施
- メンバーが講師を務め、地域住民、学生へレクチャー
- 専用のDVD,キットを使用



勉強会の開催

▶ AEDマップ作成 (2019.5)

メンバー25名が参加

- AED N@VIを活用し、名古屋市内のAED設置場所を新たに追加
- 設置場所や数など気づいた点を共有



ボランティアスタッフとして活動

- ▶ 「まるっと！防災」 (2019.6)
- AED体験コーナーを担当
: 来場者に、AED普及の使い方や胸骨圧迫をレクチャー
- イベントの総参加者数：4450名
- AEDコーナー参加者数：397名



地域イベントの協催

- ▶ いなべ市防災まつり(2019.11)
- 参加者：計30名
- 地域の方々へBLSを発信
- 小学生～高齢者の方々との交流
- 防災・減災の観点も学ぶ



地域の方々にBLSを伝えている様子

- 地域での普及啓発
→ 計427名の地域の方々に発信
- 学内での普及啓発
→ メンバー25名から41名に



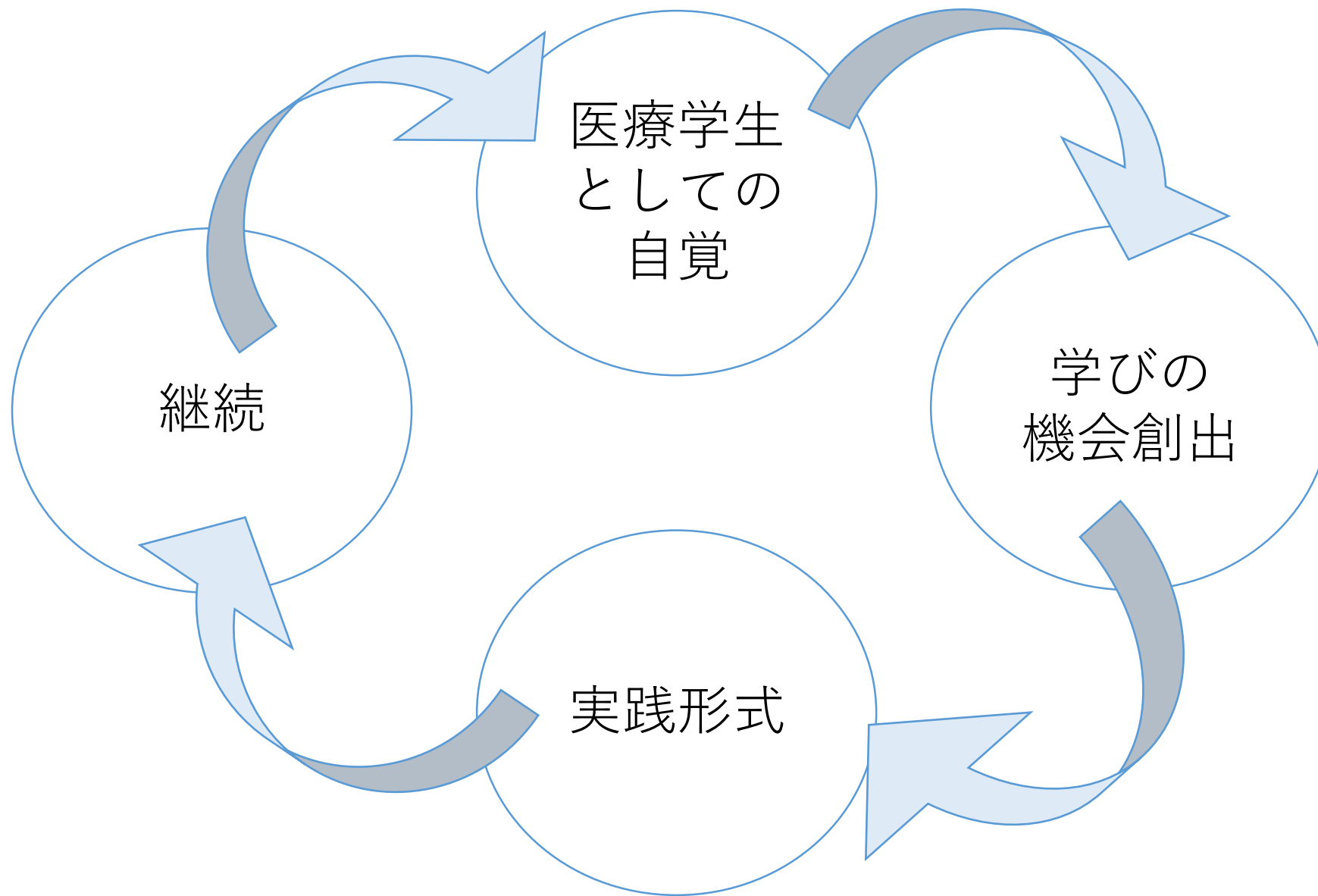
地域の救急医療に貢献

このプロジェクトから学んだこと



新入生との集合写真

- 「伝える」 ≠ 「伝わる」
- 「発信」に伴う「責任」
- 「一歩」を踏み出す姿勢
- 働くときの大切な軸



ご清聴ありがとうございました